

大気汚染の原因は工場公害から自動車排ガス公害へ変化！

川崎市は、平成一九年一月から、市独自で成人ぜん息患者医療費助成条例を実施しています。下のグラフは、川崎市健康福祉局が毎月発表をしている「川崎市公害健康被害補償事業の実施状況(月報)」から同条例の適用者を各区分別適用者数をグラフにしたものです。麻生区、宮前区、多摩区が急激に増えているのが、ご理解いただけるとおもいます。

私たちは、川崎市に対して、川崎北部地域になぜ、ぜん息患者が急増しているのか、その原因を究明するよう申入れをおこなっています。

しかし、福田市長をはじめ担当部局の健康福祉局は、何ら理由を示さずに話し合いの場を拒否しています。

私たち患者会は、ぜん息で苦しむ患者の声を聞いてもらうこと、なぜ、緑豊かな北部地域にぜん息患者が急増しているのかという原因を究明し、ぜん息で苦しむ患者をこれ以上増やさないための抜本的な対策を講じてもらいたいと思います。

確かに、川崎市は昔のような激甚の大気汚染は、市民、行政、議会、企業の努力で改善してきました。しかし、大気汚染の主役は、自動車排ガスに変化しているのではないのでしょうか。

国交省、環境省、排ガス規制基準検討

国土交通省と環境省は、自動車排出ガスの健康被害を重く受けとめ、ディーゼル車の走行中の排ガス規制基準を検討する方針を固めました。

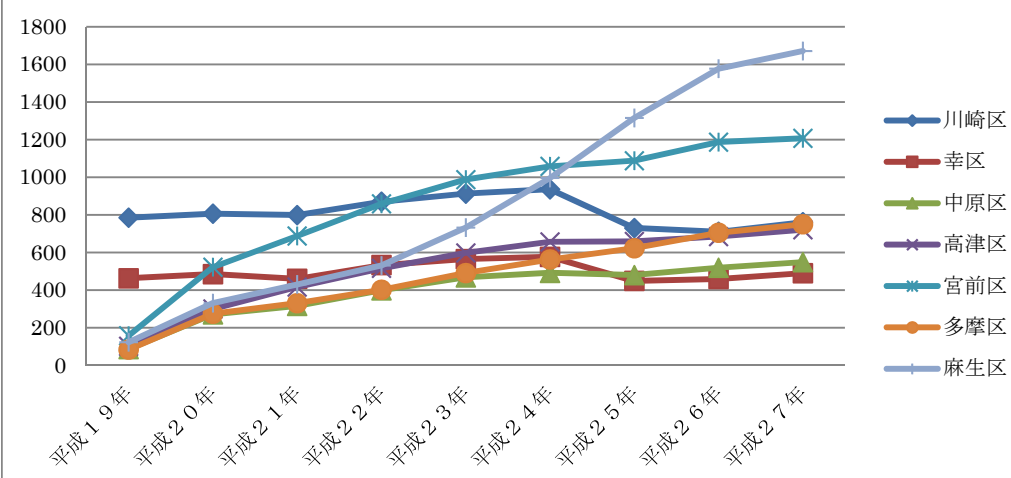
ディーゼル車 NOx排出走行中規制へ 屋内基準の最高10倍

国土交通省と環境省は3月16日、国内メーカーのディーゼル車の走行中の排ガス検査で、3社の計4車種が屋内検査基準の最高10倍の窒素酸化物(NOx)を出したと発表した。現在は、走行中の排ガス規制の基準はないため、違反にはならぬというものの、国交省などは今後、走行中の基準も作り、規制に乗り出す方針だ。

ドイツ自動車大手フォルクスワーゲン(VW)の排ガス不正問題をめぐり、国が走行中の排ガス検査を初めて実施した。トヨタ自動車、日産自動車、マツダの3車種のディーゼル車計6車種を2015年12月〜今年2月に調べたところ、トヨタの2車種で調べたところ、NOxが排出量基準を10倍超える車種が確認された。

走行中でも屋内基準の水準をおおむねクリアしていたマツダの2車種は、NOx削減技術だけでなく、エンジン内の燃焼の燃焼温度を上げてNOxを減らす技術を使っているという。今国交省は上回るという。今国交省は上回るという。今国交省は上回るという。

各区分別条例認定者数の推移



2016年3月18日
 川崎公害病患者と家族の会
 川崎市川崎区砂子 2-8-1-304 ☎211-0391
 川崎北部のぜん息患者と家族の会
 川崎市高津区下作延 1-13-45-102 ☎833-9601

環境省調査で、「自動車排出ガスとぜん息発症の有意な関連を認める」



環境省がぜん息発症の原因を解明するために行った「そらプロジェクト調査」と「サーベイランス調査」の二つの調査で自動車排出ガスとぜん息発症の有意な関係が認められました。

そらプロジェクト調査では、学童調査において「予め十分に精査された適切なデザインによる十分な対象数を確保した疫学調査により収集されたデータに基づき解析した結果、EC(元素状炭素)及びNOX推計曝露量を指標とした自動車排出ガスへの曝露とぜん息発症との間に関連性が認められた。」

(「そらプロジェクト報告」57ページ)

環境省が毎年発表しているサーベイランス調査報告において入力ミスがあり、訂正の記者会見がおこなわれました。

訂正された報告書では、「発症率についてオッズ比の検討において、大気汚染(NO₂, NO_X)とぜん息発症に有意な正の関連性が認められた」。

また、平成27年度は、オッズ比の検討において、3歳児調査では大気汚染(SPM)とぜん息に、6歳児調査では大気汚染(SPM)とぜん息(2年以内)に有意な性の関連性が認められた」と報告をしています。環境省がおこなっている調査でも、大気汚染自動車排ガスとの有意な関連性が認められています。

これらの調査結果を真正面から受けとめ、川崎市も川崎北部で患者が急増している原因究明を早急に行うべきではないでしょうか。

あわせて、国に対して、ぜん息患者の医療費救済制度をつくるよう働きかけを強めてほしいと思います。

微小粒子状物質の環境基準との比較
(平成26年度自動車排出ガス測定局)

池上新町	×
日進町	○
二子	×
宮前平駅前	×
本村橋	×
柿生	×

*○は環境基準をクリアしている測定局。×は環境基準を超えているもの。「平成27年度よりよい環境をめざしてより」

EC=自動車排出ガスの寄与の大きい成分であり、室内外で自動車以外の発生源がほとんどなく、浮遊粒子状物質(SPM)に比べても自動車排出ガスに関して特異性の高い指標である。(「そらプロジェクト」報告23ページより)